

第 82 回クラシックを楽しむ会

2023 年 12 月 24 日(日)18:00~(1 時間 30 分)

タイトル : マシュー・ボーンの「くるみ割り人形！」(チャイコフスキー)

会場等 : サドラーズ・ウェルズ劇場(ロンドン)公演

2022 年 1 月 21 日

楽団等 : ニュー・アドベンチャーズ管弦楽団

指揮 : ブレット・モリス

振付・演出: マシュー・ボーン

出演 : クララ:コーデリア・ブレイスウェイト

くるみ割り人形:ハリソン・ドウゼル

シュガー/プリンセス・シュガー:アシュリー・ショー

フリッツ/プリンス・ボンボン:ドミニク・ノース

その他 ニュー・アドベンチャーズのダンサー



サドラーズ・ウェルズ劇場「くるみ割り人形！」から

みどころ

マシュー・ボーンは、古典的な物語に演劇的なひねりを加え、ウィット、哀愁、魔法のファンタジーを駆使することで、誰もが知っている、チャイコフスキーの名作を、遊び心たっぷりに再解釈。



サドラーズ・ウェルズ劇場(ロンドン)

サドラーズ・ウェルズ劇場は、ロンドン・セントラル地区にあるダンス公演を中心とした劇場で、コンテンポラリー・ダンスの劇場として最も知られている。バレエやフラメンコ、歌舞伎等の公演も催されている。劇場の周囲は緑豊かな古き良きヴィクトリア調の街並みに、大英博物館、大英図書館など、博物館や美術館が点在している。



過去の上映記録

第 39 回 (2016 年) 英国ロイヤル・オペラ・ハウス公演 (2000 年 12 月)。

第 83 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル: 歌劇「トスカ」(プッチーニ)

1 月 28 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

イタリア大統領夫妻が出席し、イタリア国歌が演奏されて開演する、ミラノ・スカラ座 2019 / 2020 開幕公演。現代を代表する 3 人の名歌手ネトレプコ、メーリ、サルシが出演する豪華キャスト。アリア「歌に生き、恋に生き」、「星も光りぬ」はあまりにも有名。

ボーン版「くるみ割り人形！」

ボーン版の「くるみ割り人形！」は、純粋なクラシックバレエ「くるみ割り人形」を再解釈したもの。ドロス博士の孤児院に住む夢多き少女クララは、暗黒のクリスマスイブから、きらめくアイススケートの冬のワンダーランドを経て、キャンディの王国へ旅する。恋に落ち、悲しい目にもあいながら少し成長するクララは最後には報われてハッピーエンド。チャイコフスキーの華麗な音楽と、アンソニー・ウォードによる新しいセットと衣装が、ボーンの見事な振付と相まって、この古典的な作品を新鮮で魅力的に解釈した作品となっている。

マシュー・ボーン作品は、純粋なクラシックバレエとは異なり、**コンテンポラリー・ダンス**や**ジャズ・ダンス**等の要素も組み合わせさせた独自のスタイルで観客を魅了している。



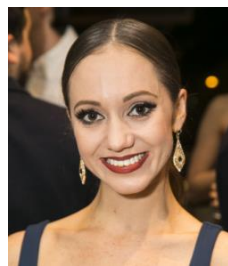
出演



コーデリア・ブレイスウェイト
(クララ)



ハリソン・ドウゼル
(くるみ割り人形)



アシュリー・ショー
(シュガープリンセス・シュガー)



ドミニク・ノース
(フリッツプリンス・ボンボン)

コーデリア・ブレイスウェイトが演じている、優雅で心優しいクララは、悪意のあるシュガー(アシュリー・ショー)によって夢の中で人生を妨害され、彼女の旅をします...

ハリソン・ドウゼルは、8歳の時、映画「ビリー・エリオット」*をみて、ビリーのように踊りたいとダンスを習い始めた。12歳でビリー役オーディションに合格し舞台デビューして夢を叶えた。カレッジ最終学年の2019年、マシュー・ボーンの「ニュー・アドベンチャーズ」に参加、各演目の主役を演じている。

*邦題は「リトル・ダンサー」。世界中の観客を虜にした感動作。

アシュリー・ショーは、1990年オーストラリア生まれのバレエダンサー。マシュー・ボーンの「ニュー・アドベンチャーズ」のプリンシパル。シンデレラ役、オーロラ役、黒鳥役を演じている

ドミニク・ノースは、1983年イギリス生まれのバレエダンサー。

マシュー・ボーンは、1960年イギリス生まれのコンテンポラリー・ダンス演出・振付家。英国王室より叙勲。2016年にはナイトの称号を授与され、ダンス界への多大なる貢献によりエリザベス女王戴冠賞を受賞。

ボーンのダンスカンパニー「ニュー・アドベンチャーズ」は、過去30年間、オリヴィエ賞を5回、トニー賞を1回受賞し、観客を驚かせ続けている。

注. "マシュー・ヴォーン" は映画プロデューサー、映画監督、脚本家。マシュー・ボーンとは別人。



マシュー・ボーン

参考. クラシック・バレエ「くるみ割り人形」のあらすじ

【主要人物】

ドロッセルマイヤー： 機械仕掛け人形や時計を作る職人で時空を超越する魔術師。クララの名付け親
ハンス・ペーター： ドロッセルマイヤーの甥。魔法で醜いくるみ割り人形にされている。
クララ： シュタールバウム家の少女

まえおき

ドロッセルマイヤーがかつてある王様に仕えたときネズミ捕り機を発明して宮殿のねずみの半分を退治。ねずみの女王はその仕返しに彼の甥ハンス・ペーターに呪いをかけて醜いくるみ割り人形に変えた。その呪いを解くには、ねずみの魔女の息子であるねずみの王様を倒し、醜いくるみ割り人形を愛してくれる少女を見つけること。

【第1幕】

ある年のクリスマスイブ。シュタールバウム家のパーティーに招かれたドロッセルマイヤーは、甥にかけられた呪いを解く絶好の機会だと思った。なぜならシュタールバウム氏の娘クララは想像力豊かな心優しい少女、このクララなら醜いくるみ割り人形を愛してくれるかもしれないと。ドロッセルマイヤーはくるみ割り人形をクララに委ねることにした。

パーティーが終わって家が静かになると、クララはくるみ割り人形の様子を見に階下の広間へ下りて行った。クララはくるみ割り人形を気に入ったが、兄弟のフリッツが壊してしまった。

クララがくるみ割り人形を抱き上げていると、ドロッセルマイヤーが現れてクララを時間が浮遊する世界に誘い込み、魔術で広間を戦場に変えてねずみの王様を呼び出した。そしてねずみの王様率いるねずみ軍とくるみ割り人形率いるおもちゃの兵隊との戦いが始まった。くるみ割り人形はクララの助けを借りてねずみの王様を撃退した。

くるみ割り人形は呪いが解けて元のハンス・ペーターの姿に戻りクララとダンスを踊る。ドロッセルマイヤーは二人を雪の精が踊る雪の国を通ってお菓子の国へ旅立たせた。

【第2幕】

ハンス・ペーターとクララはクリスクス・エンジェルたちに導かれて、お菓子の国の女王こんぺい糖の精と王子に会うため旅に出た。ハンス・ペーターがクララの助けを得て呪いが解けたいきさつを話すと、こんぺい糖の精は彼らの勇気を讃えた。祝宴が開かれていろんなお菓子の精がダンスを披露した。

気が付くとクララは自宅に帰っていて家の外に出ると、奇妙なことによく知っている若い男（ハンス・ペーター）に出会う。ハンス・ペーターはドロッセルマイヤーの仕事場に帰る。本当に呪いが解けたことが分かったドロッセルマイヤーは驚き、ハンス・ペーターと抱き合って喜ぶ。

小序曲	第12曲 ディヴェルティスマン（登場人物たちの踊り）
第1幕	チョコレート <small>の精</small> 【 スペインの踊り 】（ボレロ）
第1曲 情景【クリスマスツリー】	コーヒー <small>の精</small> 【 アラビアの踊り 】（コモド）
第2曲 行進曲	お茶 <small>の精</small> 【 中国の踊り 】
第3曲 子供たちの小ギャロップと両親の登場	トレパック【 ロシアの踊り 】
第4曲 踊りの情景【ドロッセルマイヤーの贈り物】	アーモンド <small>の羊飼</small> い【 葦笛の踊り 】
第5曲 情景と祖父の踊り	ジゴーニュ小母さんとキャンディ ボンボンたち
第6曲 情景【招待客の帰宅、そして夜】	第13曲 花のワルツ
第7曲 情景【くるみ割り人形とねずみの王様の戦い】	第14曲 パ・ド・ドゥ 【こんぺい糖 <small>の精</small> と王子 <small>の</small> パ・ド・ドゥ】
第8曲 情景【松林の踊り】	【 アダージュ 】
第9曲 雪片のワルツ	ヴァリアシオン I（タランテラ）
第2幕	ヴァリアシオン II こんぺい糖<small>の精</small>の踊り
第10曲 情景【お菓子の国の魔法の城】	コーダ
第11曲 情景【クララと王子の登場】	第15曲 終幕 <small>の</small> ワルツとアポテオーズ

原作の童話、その翻訳小説、そして台本

E.T.A.ホフマンはバレエ「くるみ割り人形」以外にバレエ「コッペリア」、オッフェンバックの歌劇「ホフマン物語」などの原作となった作品を発表した当時の人気作家であった。バレエ「くるみ割り人形」の原作は童話「くるみ割り人形とねずみの王様」である。これをアレクサンドル・デュマ・ペールがフランス語に翻訳小説にし、この小説をもとにマリウス・プティパが台本を作成した。プティパがリハーサル直前に病に倒れ振付を後輩のレフ・イワノフに託した。マリインスキー劇場支配人とプティパの板挟みで苦心惨憺して完成させたが初演は大成功と言えなかった。このため定番となる演出・振付がなく、21世紀に入った現在も新演出・新振付が作成されている。ロイヤル・バレエのピーター・ライト版もその一つである。



E.T.A.ホフマン



デュマ・ペール

作曲の経緯と組曲「くるみ割り人形」

チャイコフスキーは「くるみ割り人形」作曲中に自作指揮の演奏会を企画していたが、作曲するひまがなかったため「くるみ割り人形」から8曲を選んで演奏会用組曲にした。バレエ初演に先立ち組曲版をチャイコフスキー自身が初演した。



チャイコフスキー

「こんぺい糖の精の踊り」について



こんぺい糖の精の踊り（原題はドラジェの精の踊り、英語圏ではシュガープラムの精の踊り）には当時フランスで発明されたばかりのチェレスタが使われているが、チャイコフスキーはチェレスタがリムスキー・コルサコフたち他の作曲家に先に使われるのを防ぐため業者にくぎを刺していた。

明治・大正時代の日本では「ドラジェ」は一般的でなかったため「金平糖」と翻訳したとされる。英

語圏でクリスマスキャンデー「シュガープラム」に、イタリア語には「コンフェット」と翻訳されている。「ドラジェ」と「コンフェット」はいずれもアーモンドの糖衣掛け。「シュガープラム」は本来「梅」の意味はなく形と大きさが似ている砂糖で作った手間暇かかる高価な飴玉だったが「くるみ割り人形」作曲当時は産業革命で大量生産が可能になっていた。現在はプラムやナッツなどの入った「シュガープラム」も作られている。



ドラジェ



シュガープラム